

令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

| 学年 | | 生徒数 (人) | 平均正答率(%) | | 平均無解答率(%) | | | 平均IRTスコア |
|-------|-----|------------|----------|------|-----------|------|-----|----------|
| 実施月日 | | | 国語 | 数学 | 国語 | 数学 | | 理科 |
| 3 年 | 学校 | 38 | 39 | 22 | 9.8 | 18.4 | 学校 | 428 |
| | 大阪市 | — | 52 | 46 | 6.8 | 11.2 | 大阪市 | 489 |
| 4月17日 | 全国 | — | 54.3 | 48.3 | 6.7 | 10.6 | 全国 | 503 |

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

| 学年 実施月日 | | 生徒数 (人) | 平均点(点) | | | | | 平均無解答率(%) | | | | |
|------------|-----|------------|--------|------|------|------|------|-----------|-----|------|------|-----|
| | | | 国語 | 社会 | 数学 | 理科※ | 英語 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科※ | 英語 |
| 3 年 | 学校 | 32 | 50.8 | 38.8 | 45.5 | 32.6 | 42.4 | 11.1 | 7.9 | 15.0 | 15.4 | 8.1 |
| | 大阪市 | — | 64.8 | 51.5 | 54.3 | 46.5 | 54.4 | 6.1 | 5.8 | 11.1 | 9.4 | 6.5 |
| | 大阪府 | — | 64.2 | 51.2 | 53.9 | 46.0 | 53.2 | 6.8 | 6.5 | 12.1 | 11.0 | 7.4 |

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 梅南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

「話すこと・聞くこと」の領域内「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題において、全国平均の38.1%に対して39.5%と上回った。しかし、「書くこと」の領域に関しては全国平均52.8%に対して36.8%と、大幅に下回った。ここから、記述問題に課題が見受けられる。全体的には、全国平均54.3%に対して39%と、大幅に下回った。

＜数学＞

大阪市・大阪府の正答率と比較して、大きく下回る結果となった。特に、関数の単元の正答率が大きく下回った。基礎的な計算や方程式を解く力を必要とする、形式が予想しやすい出題を解く力は身につけてきているが、応用力が身につけていないことが顕著に表れた。

＜理科＞

今回から導入されたというIRTという統計理論によると、本校のIRTスコア(500を基準とする)は、「428」(全国503、大阪府487)であった。全項目について平均を下回る結果であった。理科の学力調査は、今回初めてコンピューターを使用したもので、通常のテストとは異なり小問集合のような出題形式であった。物理・化学・生物・地学の問題が混合して出題されるため、問題の流れがつかみにくく、さらに動画を見て答えるという特殊な出題形式は慣れていないと難しかったと思う。また、塩素の元素記号を答える問題の正答率が31.6%(無回答率13.2%)だったのが特に気になった。基礎の定着のための反復練習が必要である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜国語＞

大阪府の平均を13.4ポイント下回った。「話すこと・聞くこと」については3.2ポイント、「書くこと」については3.1ポイント、「読むこと」については4.4ポイント下回った。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については0.9ポイントと差を詰めることが出来た。

＜社会＞

大阪府平均と比較して、全体的に平均を下回る結果となった。また、問題別に見たときに、筆記問題の正答率が低く、特に歴史分野の筆記問題の正答率が低いので、歴史分野の知識の定着が必要である。

＜数学＞

平均点は大阪府と比較して、8.4ポイント下回る結果となった。昨年度は10.8ポイントを下回っていたので、2.4ポイント上昇した。「数と式」の単元、「図形」の単元は大阪府と比較してそれぞれ1.7ポイント、1.3ポイント下回ったものの、計算力や図形認識力、図形を数値化・式化する力(数量的に扱う力)は確実に身につけてきたと感じる。一方、「関数」の単元では3.9ポイント下回っており、数量関係を式で表す力(翻訳力)、変化の規則性を捉える力などを向上させる必要がある。

＜理科＞

成果は府平均46.0点に対して、本校は32.6点であった(対府比0.70倍)。ほぼ正規分布はしているものの、70点以上取れた生徒もおらず、中央値が26.0点ということで、全体的に振るわなかった。課題として、最近学習した3年生の範囲については正答率も比較的高かったが、1・2年生の範囲についてはほとんど定着していない。濃度を求める、振動数を求める、といった計算が必要な問題における正答率が0%だったことから、特に計算への苦手意識がうかがえる。

＜英語＞

平均点が大阪府平均より10ポイント下回っていたが、ポスターから読み取る問題に関しては、府平均を超えてるものもあった。書くことが府平均よりも10ポイント以上下回っているため、より書く練習を進めていかなければならない。

令和7年度 梅南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

「書くこと」に関して苦手意識を持っている生徒が多いため、記述問題対策や作文の練習をさせる。また、問題を解く速度が遅いことや、無回答率の高さが目立つことから、時間を意識して問題を解く練習も取り入れていく。さらに、読解力を向上させるため、ワーク等を活用していろいろな文章問題を解かせていく。

＜数学＞

大阪府や私立志望校の入試問題を中心に、それ以外の様々な問題に取り組むことで、読解力や応用力を身につけさせる。

＜理科＞

動画を見て答えるのと、文章を読んで答えるのでは、必要とされる力が異なるため教員側も戸惑っている。今年度の3年生はこれまで毎年理科の先生が変わっているため、系統立てた指導ができていないのも定着率の低さの要因のひとつかもしれない。受験に向けて、1・2年の範囲の基礎的な内容の復習・演習に特に力を入れる必要があると感じた。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜国語＞

各自の進路実現に向けて、不得意分野の克服を目指し、個々に応じた学習目標を立てて取り組ませていく。また、入試問題等を実際に時間を計って解かせて実践演習を行う予定である。

＜社会＞

卒業までの残りの期間で、地理分野・歴史分野の復習問題のプリントを配布し基礎的な知識の定着を目指す。基礎的な知識の定着を適宜小テストなどで確認し、ある程度基礎知識が身についてきたら、論述力を高めるための思考・判断・表現力を身に着ける学習を進めていきたい。

＜数学＞

改めて各領域の基礎を向上させ、正答率を上げたい。また、入試のために発展的な問題演習も個々に応じて取り組んでいく必要がある。

＜理科＞

1・2年生の範囲を復習する時間を確保し、基礎の定着をはかり、受験に備える。

＜英語＞

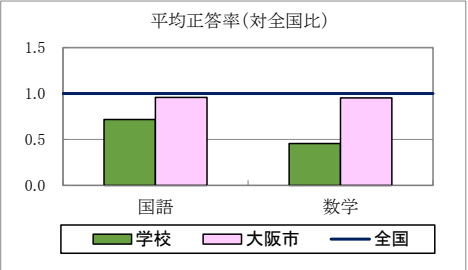
聞くことが府平均と2ポイントしか変わらないので、よりこの長所を伸ばしつつ、苦手な書くことをより練習できるよう、様々な練習問題に取り組ませたい。また読むこともより練習していくために、Readingの時間を増やしていきたい。

令和7年度 梅南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

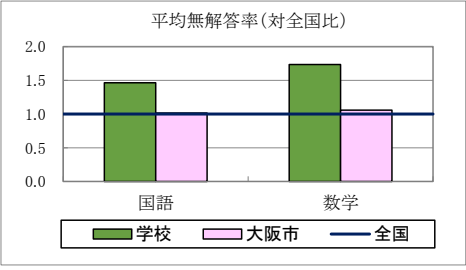
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

| | 平均正答率(%) | |
|-----|----------|------|
| | 国語 | 数学 |
| 学校 | 39 | 22 |
| 大阪市 | 52 | 46 |
| 全国 | 54.3 | 48.3 |

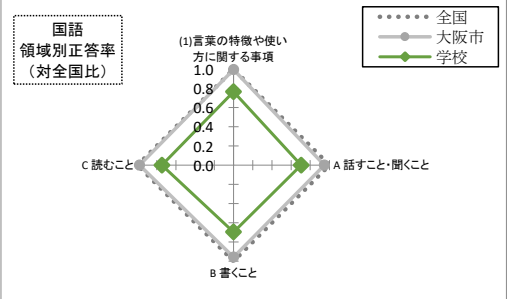
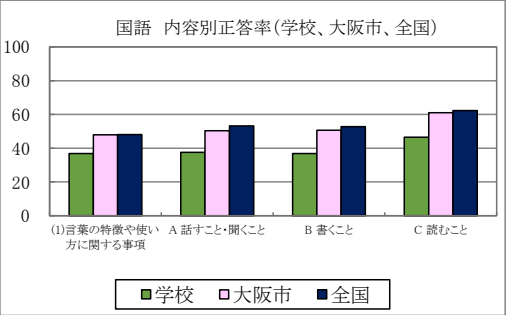


| | 平均無解答率(%) | |
|-----|-----------|------|
| | 国語 | 数学 |
| 学校 | 9.8 | 18.4 |
| 大阪市 | 6.8 | 11.2 |
| 全国 | 6.7 | 10.6 |



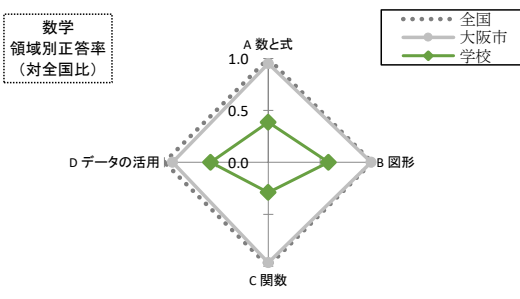
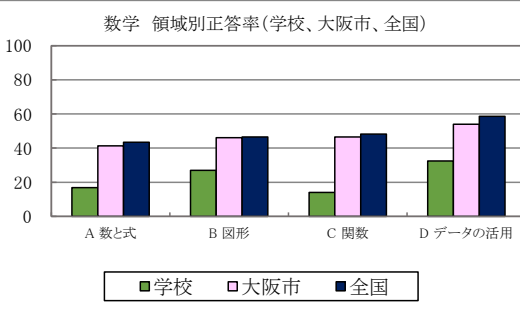
【 国 語 】

| 学習指導要領の 内容 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い 方に関する事項 | 2 | 36.8 | 47.9 | 48.1 |
| (2)情報の扱い方に 関する事項 | 0 | | | |
| (3)我が国の言語文化 に関する事項 | 0 | | | |
| A 話すこと・聞くこと | 4 | 37.5 | 50.4 | 53.2 |
| B 書くこと | 5 | 36.8 | 50.6 | 52.8 |
| C 読むこと | 3 | 46.5 | 61.0 | 62.3 |



【 数 学 】

| 学習指導要領の 領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------|------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と式 | 5 | 16.8 | 41.4 | 43.5 |
| B 図形 | 4 | 27.0 | 46.1 | 46.5 |
| C 関数 | 3 | 14.0 | 46.6 | 48.2 |
| D データの活用 | 3 | 32.5 | 54.0 | 58.6 |

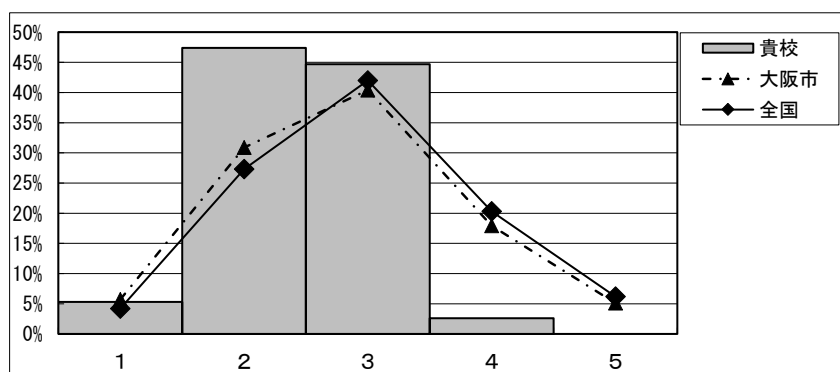
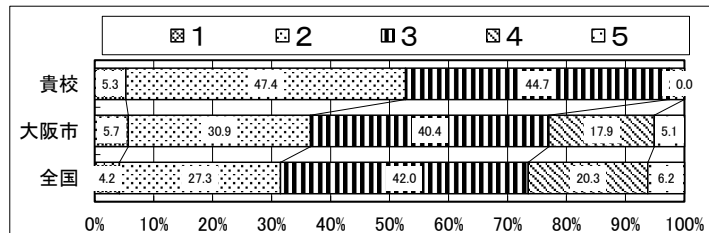


令和7年度 梅南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

| | 平均IRTスコア |
|-----|----------|
| 学校 | 428 |
| 大阪市 | 489 |
| 全国 | 503 |



令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

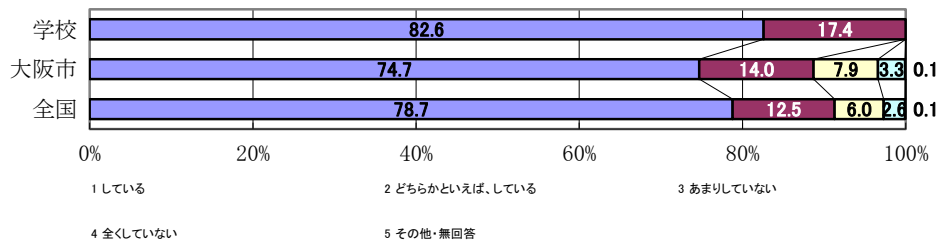
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

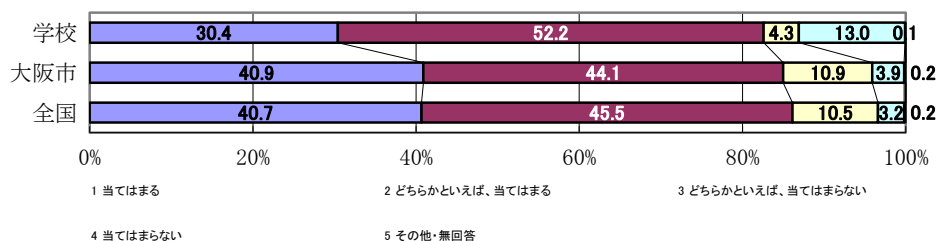
1

朝食を毎日食べていますか



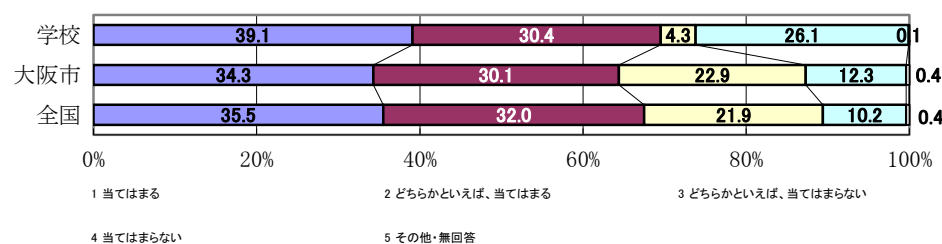
5

自分には、よいところがあると思いますか



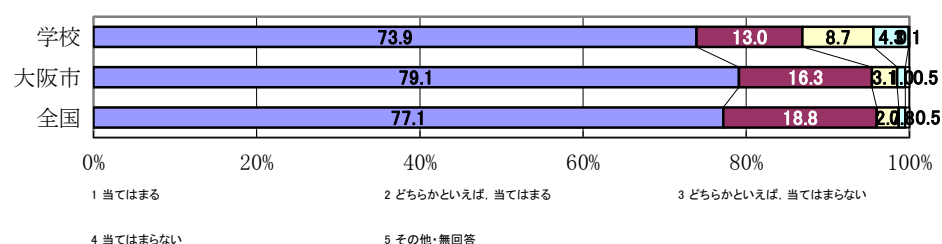
7

将来の夢や目標を持っていますか



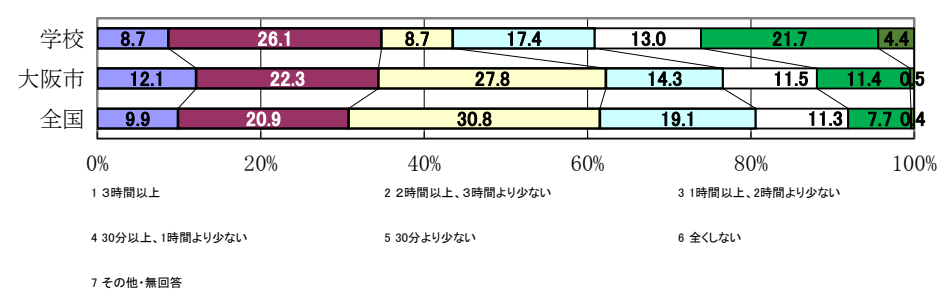
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

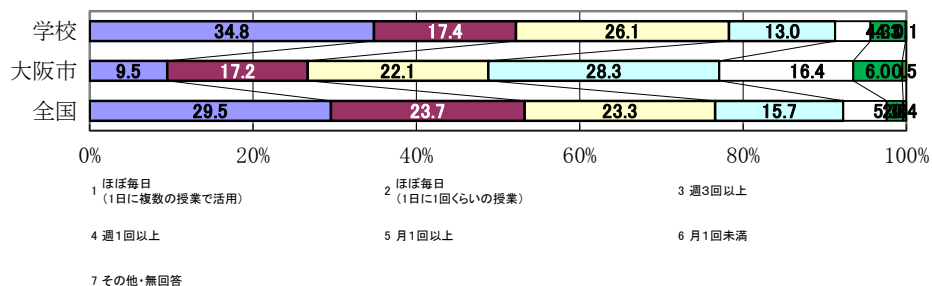
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

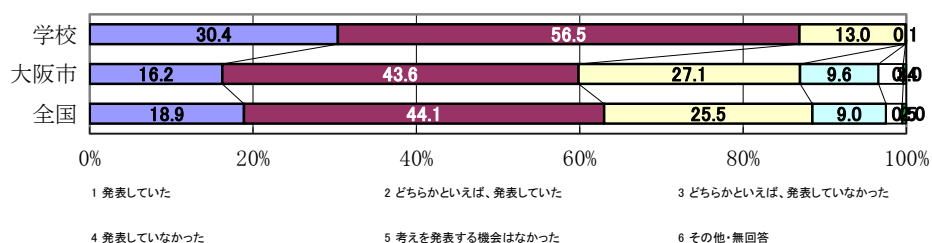
28

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



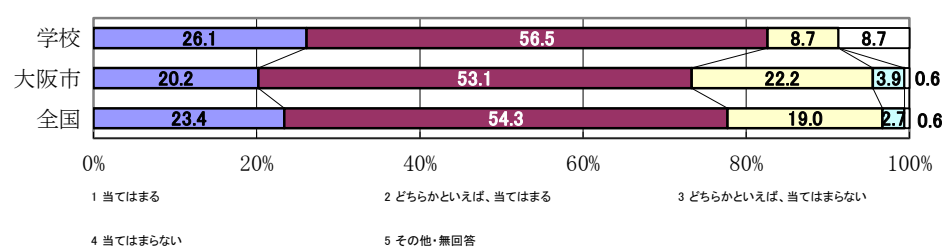
31

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



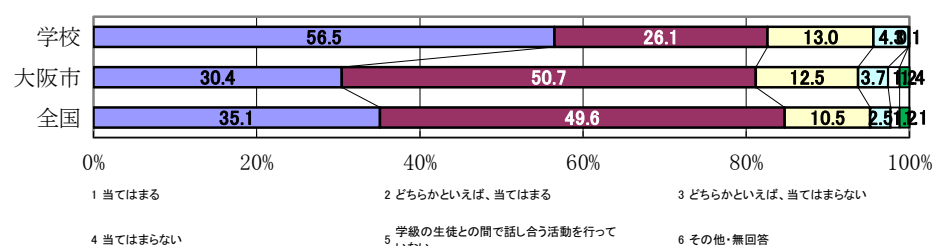
32

1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



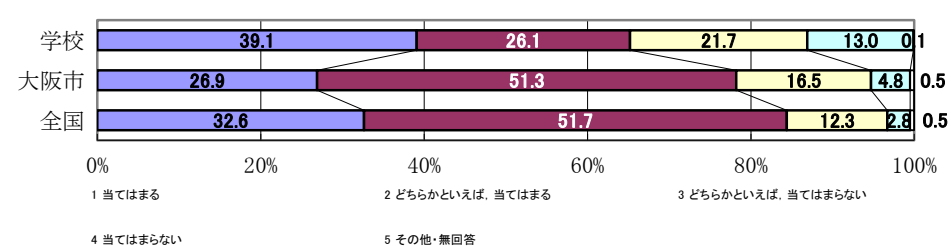
35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



41

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

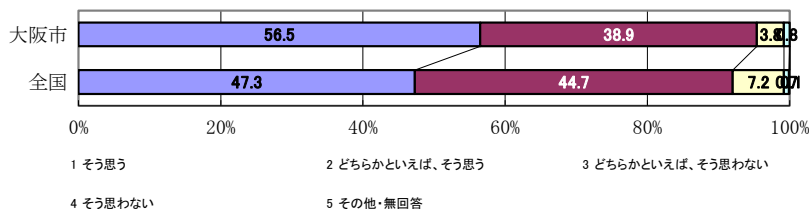
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

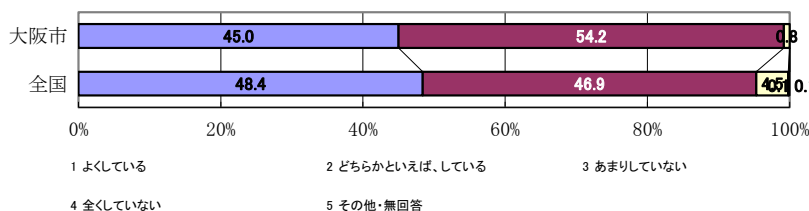
学校 「そう思う」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

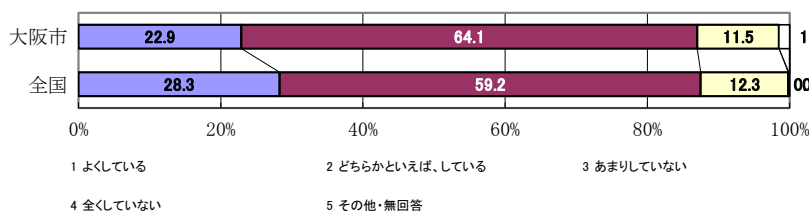
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

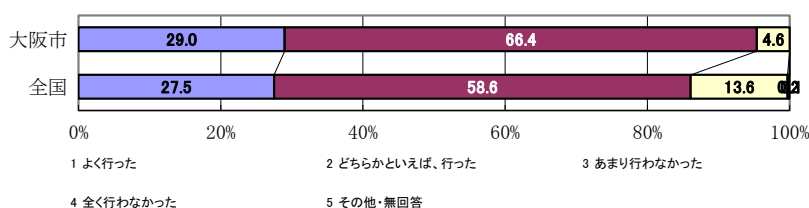
学校 「よくしている」を選択



32

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「よく行った」を選択



58

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択

